

田中研新聞

芦川君、 修士論文中間発表

11月1日



修士論文の中間発表会が、大学祭の期間を使って実施されました。全部で8名、当研究室からは、芦川君が発表しました。

発表後の感想(芦川凜空)

11月1日に行われた修士中間発表会で発表を行いました。他の修士の発表を見ることで、自分の資料や発表に足りないものを確認できました。自分の発表に関しては、緊張でかなり焦って発表してしまいました。話す内容に関しても噛んでしまったところがあり、改善点があります。質疑応答は、ためになることがたくさんで、YOLO

で検知したものに障害物がある場合に検知ができていないか、これに関しては今後考えたいと思います。形が一定の工業品と一定でない路面は同じに検知できるのか、これは路面のバリエーションを付けて実行したら、ある程度誤検知は減りました。路面の検知範囲の除外を自動でしているかどうか、これが上手く答えられず、その部分の異常スコアを0にしていると答えましたが、納得してもらえなかったかもしれません。これらの質疑応答は今後研究や発表に活かしたいと思います。また、神原先生から発表後メールで質問やコメントをいただき、これも今後の研究の参考にします。次の発表である研究成果発表会やSI2024、修士発表も頑張りたいです。(芦川)

第138号
2024年
11月1日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室 ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任 田中雅博

10月30日

近畿大学工学部の 竹田研究室を訪問しました



例年通り、今年も近畿大学工学部(東広島)の竹田史章教授からご招待を受け、研究室での研究発表を聞かせていただき、ディスカッションをしました。今年度は修士課程2年の4人の発表を聞きました。コーヒー豆関係の研究が2つ(焙煎段階の画像推定、混入異物の検出)と、セラミック球表面の欠陥検査、工業部品の小さな不良の検出に関するシステムの提案でした。学生さんは私の多く

の質問にもしっかりと答えており、やはり修士課程は学部とは違うという感じがしました。あちらの専攻では、修士の中間発表はM1だそうなので、M2はいきなり本番とのこと。私が訪問して質問したりするのがちょうど当方の専攻の中間発表に相当するものと位置付けておられるそうです。私が部屋に入ると、大きな声で皆さん挨拶され、竹田教授も写真にあるとおり、ネクタイ姿で、ノーネ



竹田教授も今年度で定年クタイの私は恐縮ものでした。



退職を迎えられるというところで、私と同じ状況です。竹田先生のところでは、提案システムが搬送系や照明を伴うものが多いため、当方よりも片付けがより大変だろうと推察するのですが、まだあまり片付けが進んでいないようではないようです。竹田先生は9年前、高知工科大学から近畿大学に移られているので、そういうところには抜かりはないものと思います。大学を退職後は、ニューラルネットの応用システムを作成する会社経営をしていられる予定だそうです。



卒業研究中の学生と 集合写真を撮りました

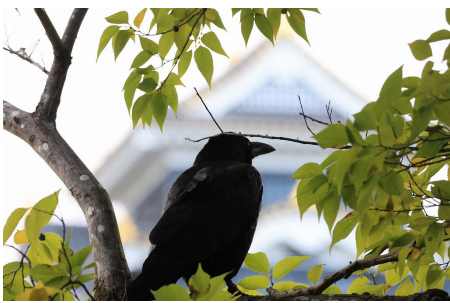


卒業アルバムの写真撮影の際に、同じショットを藤木君の携帯でも撮ってもらいました。今年度は私の最後のゼミですが、皆さん、それぞれの自分の課題に真剣に取り組んでいるように感じます。今年度の皆さんは、素直で前向きなので、私も皆さんとやり取りが気持ちよくできています。それぞれの研究内容や、卒論、発表会の様子も追って掲載していきたいと思っています。あと3か月になりましたが、最後まで気持ちを緩めずに頑張ってくださいね。

田中教授の フォトギャラリー



左は、岡山後楽園の外園で撮影したものです。後楽園の周囲は旭川が分岐してちようどお堀のようになっています。そのそばには遊歩道があり、多くの木もあり、猫や野鳥なども多数見られます。最近では外国人が非常に



に増えてきましたが、外園を歩くのは犬の散歩や自身の散歩コースにしている日本人が多いようです。私も、ちよつと歩きたい日曜日などはカメラをもってここに出かけます。本当は小鳥を撮りたいのですが、

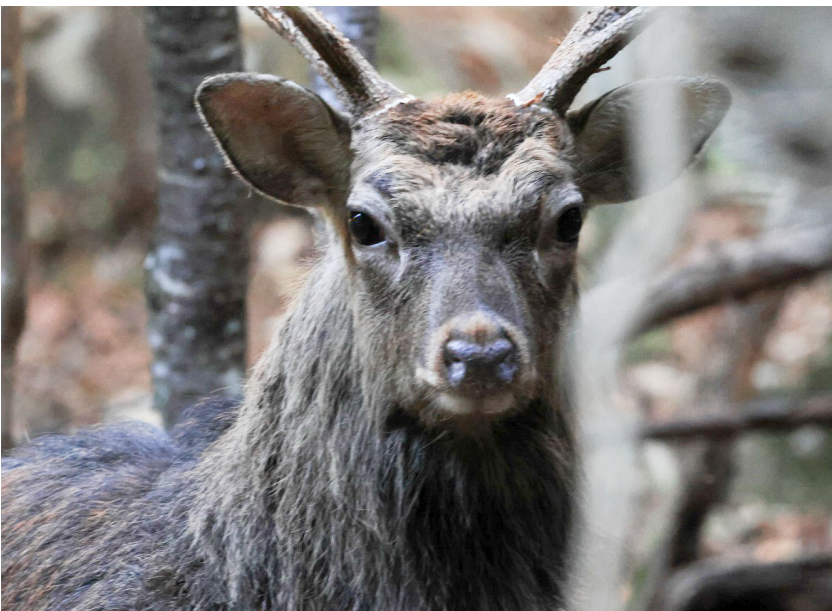


が、最近めつきり減りました。その代わりに、減らないう（むしろ増えている）のは、猫、鳥（カラス）、そして、アオサギです。1枚目は、今回初めて見た猫。とてもきれいで、飼った猫のようでした（が、違

姫路市自然観察の森という自然公園が、JR姫新線余部駅から歩いて行けるところにあります。岡山から新神戸までの新幹線定期を持って行ける間は、姫路は無料で行ける手軽な場所です。それにもかかわらず今まであまり行かなかったのですが、今年になってから少し



ピッチを上げていくようにしています。右の2枚の写真は、10月に行つたときに見かけた、まさに野生の動物です。上はヤマドリ。柿本人麿の「あしびきの山鳥（やまどり）の尾のしだり尾の長々し夜をひとりかも寝む」の中に出てくる山鳥です。下

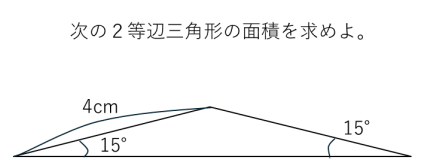


は鹿です。公園の中にある、ネイチャーセンターに立ち寄ると、森の中の様々な写真をとることができ、また、親切な職員さんと話をすれば、ヤマドリが観察された場所などの貴重な情報を得ることが出来ます。山の中を歩けば、行きかう人とは

挨拶をするのが常識ですが、挨拶以外に少しだけ多くのことを話せば、大抵の人とは、待ってましたとばかり、多くの会話が出来ます。こんな動物が住んでいて、元気な人が登るこの森は素晴らしいですね。

ChatGPT

「こんな」もできる！



次の2等辺三角形の面積を求めよ。

私は、ChatGPT Plus（有料版）を使っています。ここで、数学の問題を画像で与えました。（右の図）。これを解きなさいという指示だけプロンプトに入れたときのChatGPTの答えが左の図です。まず、画像の中の指示や

辺の長さ、角度など、すべて正確に読み取れていました。そして、2等辺三角形ということから、どの辺とどの辺が等しいかも、角度情報から読み取ってあります。あとの計算ができています。もうここまでできるので、皆さん方はこの問題解けましたか？

実は、最初にこの問題を与えたときには、左側の15度という数値は書いていませんでした。すると、上の頂角が15度として解いたのです。つまり、図形を見て、等しい2辺がどれかはわかっていませんでした。ここだけ、やっぱり機械だなと思った点で、あとはびっくりです。このあと、「ほかの解き

方もありますか？」と聞いてたところ、正弦定理を使った方法、ヘロンの公式を使った方法で解いて、正しい答えが出ていたところを示してくれました。もつと難しい問題が解けるかどうか、そのうち試してみたいと思います。ChatGPTは「間違え」というのはある程度常識として知られていますが（嘘八百なんてことは普通の人には言われていませんよ！）、ここでは正しい答えを示しました。数学の問題に対しても、もうChatGPTは侮れませんね。

編集後記

山口で一人暮らしを続けてきた母親を、妻、そして川崎に住む私の妹とともに、遠隔で多少の面倒を見てきました。膝が悪いという肉体的な問題と、高齢による認知症が進み、ついに施設に入ってもらいました。

本人は、施設に入れば、もう近所の友人とも会えず、後は寿命が来るのを待つだけというイメージを持っていました。可能な限り家で過ごすことを続けてきましたが、我々全員、もう限界と判断し、本人を説得したところ、自分でももう耐えきれないと思っていたのか、すぐに決断ができました。

妹が中心になってケアマネさんなどと協議しながら、受けるサービスを検討してきましたが、私も、こつと身内のものが世話になることで、介護保険についてかなり詳しく理解することができました。こういうことがない限り、人ごとのうちは複雑なものには理解できないものです。研究も同様です。指導教員が口を出しすぎたら、自分で考えないと思ひ、私は学生が主体的に考えるように指導してきました。これは、本人のためにいいよう

予定

▼11月2日〜3日 電気関係北海道支部講演会に参加、発表（田中）

▼11月22日 毎年実施している、甲南大学・鹿児島大学合同 ロボット・コンピュータビジョン研究会を甲南大学で実施（主催）

▼12月18日〜20日 盛岡で開催されるSICEESI講演会に参加（田中、芦川）、芦川君が発表